

第1回教育委員会会議

令和7年1月28日
午後3時00分
本庁舎第11共通会議室

案 件

報告第1号

令和6年度大阪市英語力調査について

令和6年度 大阪市英語力調査について

大阪市英語力調査とは

- (1) 目的 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。
- (2) 実施テスト GTEC Core（英語4技能型テスト）
- (3) 調査対象 大阪市立中学校第3学年全生徒

(4) 測定方法

技能	スコア	回答方法
聞くこと	210	マークシートによる選択式
読むこと	210	
話すこと (やり取り・発表)	210	オフラインで、専用タブレットによる音声録音方式
書くこと	210	記述式
計	840	

大阪市英語力調査結果

		GTEC 平均スコア					トータル	*1 CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合
		リスニング (聞くこと)	リーディング (読むこと)	スピーキング (話すこと)	ライティング (書くこと)			
R6 (2024)	大阪市平均	104.6	105.7	102.1	149.6	464.8	57.5%	
	*2他都市平均	105.0	100.0	99.0	151.0	457.0	—	
	差	-0.4	+5.7	+3.1	-1.4	+7.8	—	

- CEFR A1レベル(英検3級)相当以上の英語力を有する中学3年生の割合は、前年度から3.2ポイント上昇して57.5%となり、本市教育振興基本計画の目標値である56%を上回った。
- 昨年度、課題であったライティング技能に改善が見られ、平均トータルスコアで他都市平均を上回った。

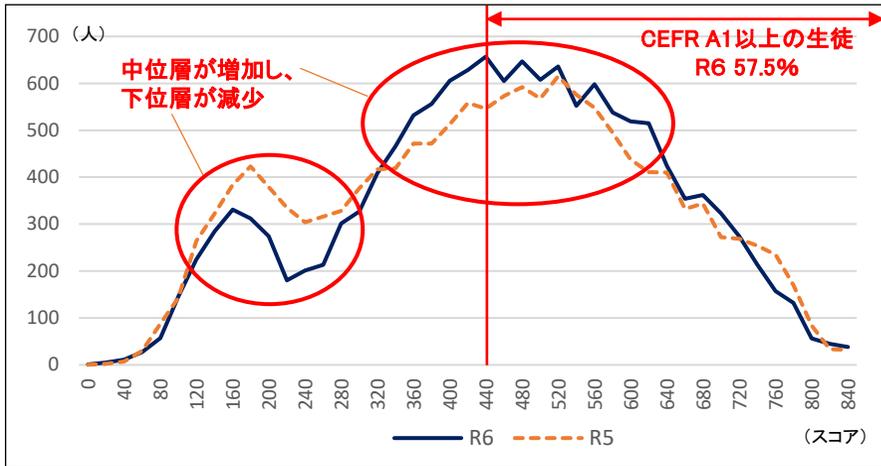
〈参考〉

		GTEC 平均スコア					トータル	*1 CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合
		リスニング (聞くこと)	リーディング (読むこと)	スピーキング (話すこと)	ライティング (書くこと)			
R5 (2023)	大阪市平均	107.7	101.3	102.2	137.9	451.8	54.3%	
	*2他都市平均	106.0	100.0	97.0	156.0	461.0	—	
	差	+1.7	+1.3	+5.2	-18.1	-9.2	—	

*1 CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment): 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠。A1は英検に換算すると3級程度。国の第4期教育振興基本計画における目標指標はR9までに60%以上。

*2 他都市平均とは、GTECを実施した全国約970校、約10万人の平均値

令和6年度GTECにおける4技能トータルスコアの度数分布

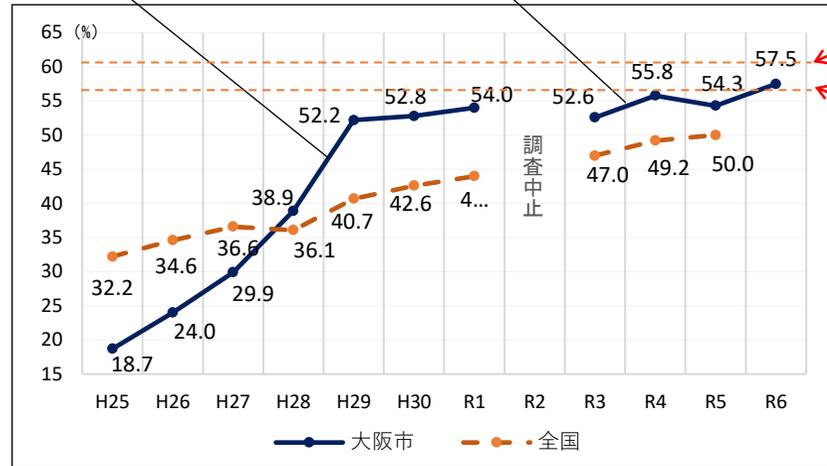


- スコア別の度数分布によると、昨年度比で中位層の人数が増加し、下位層の人数が減少
- 課題であったライティング技能について、重点的な研修等の実施により、無回答、または意味が伝わらない回答の割合が減少

GTEC ライティングテスト	R5 (2023)	R6 (2024)
0点の割合 (英文が書かれていない、または、全体を通して出題にテーマからはずれたことが書かれている)	19.7%	14.9%

CEFR A1レベル(英検3級)以上の英語力を有する中学3年生の割合

- 2技能(聞く、読む)による調査
- 4技能(聞く、読む、話す、書く)による調査



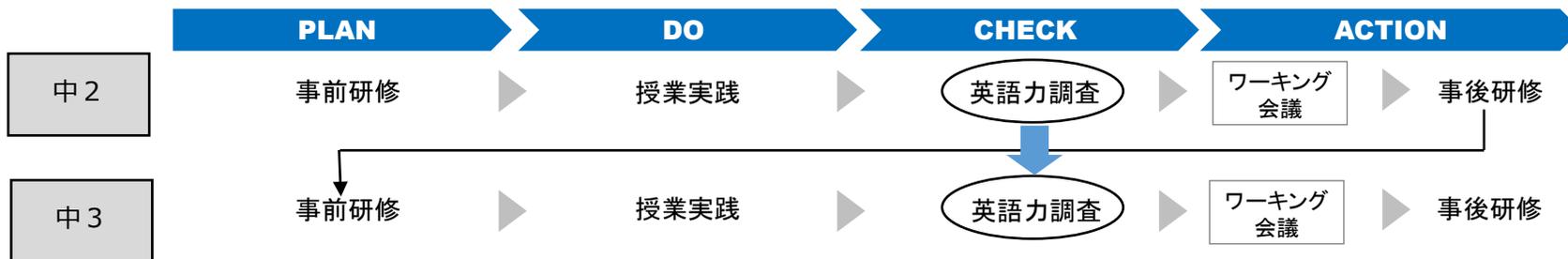
国の教育振興基本計画の
目標：R9までに**60%**
本市教育振興基本計画の
目標：R7までに**56%**

- さらなる英語力の向上に向けて、新たな打ち手が必要

➡ モデル校においてGTECを中学2年生に拡充(最大20校)

令和7年度～

モデル校において、中2・中3の2学年で英語力調査を活用したプログラムを実施



- ✓ GTECを中2で実施することで、生徒の学習改善を図る
- ✓ 同一生徒の経年比較データを活用することで、教員のさらなる授業改善を図る